

# 令和5年度 学校経営計画

四條畷市立忍ヶ丘小学校  
校長 香村 紀子

## 1 学校経営方針

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の時期を越え、ようやく様々な制限が緩和される。これまでの学校教育活動から、大切なことをあらためて見いだす機会となった。そこから得た様々なことを、今後学校の営みの中で生かしていくことが求められる。

コロナ禍の学校生活から子どもたちにはマイナスの影響もみられる。中でも「不登校児童の増加」は昨年度の本校でも見られた課題であった。学校の役割は、「子どもたちの健全な育ちを支える」ことであり、そのためには学校が「楽しい」場でなくてはならない。楽しい学校の実現は、子どもたちの学校へ登校する意欲につながるだろう。「わかる楽しさ」「居場所のある安心感」「友だちと関わる楽しさ」「難しいことに挑戦する楽しさ」…など学校には子どもたちの「楽しい」が実現できる要素がたくさんある。

今年度、忍ヶ丘小学校は、その「楽しさ」を子どもたちと、教職員と、保護者と、みんなで見だし、創りだし、楽しさを共有したいと考える。具体的には、子どもたちの状況を分析し、「挑戦すること」や「つながること」「学び続けること」の3つに焦点化し取り組みを進める。

「挑戦すること」は、子どもたちがやってみたいことに意欲的に挑戦し、「挑戦できた」とがんばる自分を自覚するだろう。「つながること」は、周りの人を知ることから始まり、協働し、相互に影響し合う関係性を生み出すだろう。また、学びをつなげることで、主体的に学ぶ姿勢につながると考える。「学び続ける」ことは、周りの人との関わりの中で自己を成長させることや、社会自立につながる力を身に付けることにつながるだろう。

このような人としての成長の場として、本校が役割を果たしていくために、教職員一人ひとりが自己の役割を正しく理解し、実直に遂行する教職員集団を形成していく。

子どもたちも、先生も、「楽しい学校」の実現に向けて進んでいくことで、個人としても、集団としても成長できる学校経営をめざしていく。

### 忍ヶ丘小学校 令和5年度学校教育目標

「みんなで つくる 楽しい忍小」  
◇ 挑戦しよう!  
◇ つながろう!  
◇ 学び続けよう!

## 2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

|          |  |
|----------|--|
| ★めざす学校像  | ○子どもたちも おとなも よりよい自分 よりよいつながり を育む学校   |
| ★めざす子ども像 | ○よりよい自分・学び・つながりをめざし、チャレンジする子<br>○自分や友だちを大切にし、つながる子<br>○主体的に、楽しく学び続ける子                        |
| ★めざす教師像  | ○「楽しい学校」の創り手として、役割を自覚し、主体的に実施する教師<br>○ことばを大切にし、子どもたちの育ちを支える教師<br>○強みを生かし、弱みを支え合う 成長し続ける教職員集団 |

### 3 学校の現状（よさと課題）

#### （1）子どもたちの実態

本校の子どもたちは、学ぶことに真面目に取り組み、目の前の課題には真摯に向き合い、答えを見いだそうとする。決められていない条件下では、とても不安が高く、なかなか主体的に挑戦したりすることはできない。安心して挑戦できる場があれば、力を発揮しやりきろうとするが、失敗や間違ふことを避けようとするために、一歩踏み出すことを躊躇する。子どもたちの持てる力を発揮する場を用意し、少しずつできる自分、できる自分たちに自信をもつことが大切であると考えている。

また、様々な場面で人に対して優しい気もちのある子どもたちの姿がある。しかし、個の主張が大切にされる社会の状況と同じく、子どもたちも自ら相手を理解し、共に進んでいくための力を身に付けていく必要がある。これによって、不登校やいじめ事案が生起することを減らし、また子どもたちとともに解決していくことを大切にしたい。

#### （2）子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

本校は四條畷市の東側、大阪平野北部を一望できる高台に位置し、飯盛山から連なる生駒山系の山並みを背に、自然豊かなところに立つ。昭和時代の経済成長期に住宅地が拓かれ始め、1973年（昭和48年）に、児童数増加に伴い、四條畷市立四條畷小学校から分かれ、開校した。校区は、東西に広がり、南に四條畷小学校区、西に岡部小学校区、北に寝屋川市と隣接している。校区内は、閑静な住宅地とJR忍ヶ丘駅を中心とした商業中心の地域があり、住みよい環境にある。地域の教育に対する関心は比較的高く、学校教育活動には注目が集まる。

子どもたちの多くが進学する四條畷中学校とは敷地が隣接し、小中連携棟を介してつながっている。昨年度は、四條畷中学校の教員が、行き来することが増え、段差のない中学校進学を意識した連携が実現しつつある。

##### ②地域

校区は岡山自治会という一つの自治会下にある。西端にある忍陵神社は、かつて大坂夏の陣で徳川方本陣が構えられたり、古墳時代の前方後円墳が発掘されたり、と歴史ある岡山地区の象徴として知られている。永く岡山地区に居住されている方と、新しく住まいを構える方とが混在し、歴史を守りながら新しいつながりを築こうとする取り組みが、地域の各団体によって企画運営され、街づくりを行っている。ここ数年はコロナの影響で、その動きも止まっていたが、久しぶりに地区運動会が開催されるなど、今年度からは動き出すようである。東側には大阪電気通信大学四條畷校舎があり、毎朝多くの学生が子どもたちの通学路を歩く姿がある。在籍する子どもたちは、年々岡山東地域から通う人数が増えてきている。

##### ③組織（教職員、PTA、保護者）

本校教職員は、総勢46名。昨年度の「楽しい学校」取り組みを通して、組織的に動くことや協働して取り組むことを経験することができた。中でも支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会やケース会議は、組織運営の大きな柱を担った。保護者は学校教育活動に参画しにくい状況であったが、昨年度少しずつ参観機会を増やし、学校へ入ってきていただく機会をもつことができた。しかし、学級懇談会がもてず個人懇談会でのつながりにとどまっていたため、学級・学年の集団として子どもたちを捉えたり、担任の思いや考えを知ったりする機会がなかった。今年度は、参観・学級懇談会を開き、子どもたちの学校での様子を知ってもらい、学校教育活動に参画してもらおう素地づくりが必要だと考える。学校運営協議会も含め、地域の方々の学校との関わり方をより充実させていくことを促していきたい。

#### 4 今年度の達成目標、具体的な方策

##### 目標設定区分1 『学校経営』

| A 今年度の成果目標  |   | 達成基準（各種調査、アンケート等）   |
|---|---|---|
| 「挑戦」「つながり」「学びの継続」の3つの柱に基づいた「説明力」の育成を通して、「楽しい学校」の実現をめざす。   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育自己診断アンケート</li> <li>○ TMに係る児童アンケート</li> <li>○ 楽しい学校 Project アンケート</li> </ul>  |
| B 目標実現に向けた取組み   |   |   |
| 項目  | 達成基準  | 具体的な方策  |
| <p>「説明力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究(TM)の取り組みを通して、説明することは、できるようになったと児童が実感する。</li> <li>○授業中、自分の意見や考えを伝える場面がある、と児童が認識する。</li> <li>○授業中話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりしている、と児童が認識できるようにする。</li> <li>○各教科等の目標や内容の相互関係を意識して日々の授業を行っている。(教)</li> </ul>            | <p>肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>80%(児)</li> <li>75%(児)</li> <li>80%(教)</li> <li>75%(児)</li> <li>80%(教)</li> <li>90%(教)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語の学習における説明力の育成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明力とは」子どもたちにつけたい説明力について教職員の共有を図る。</li> <li>・校内研究授業において、説明力育成を目指す取り組みの提案及び協議会</li> </ul> </li> <li>○「説明力」を他教科等で活用する場の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、国語以外の教科学習や総合的な学習の時間などで、誰かに説明する場を設定し、国語の学習事項を活用し、できたことを振り返る。(振り返り活動)</li> <li>・授業において、子どもたちが説明することを通して、考えを耕したり、広げたりする授業づくりを行う。</li> </ul> </li> </ul> |
| <p>「挑戦・つながり・学びの継続」を実感する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「挑戦した」「つながりを考えた」と振り返る児童を増やす。</li> <li>○既習事項や先の学年で学ぶ内容との関連(系統性)を意識して指導するようにする。</li> <li>○学校に行くのが楽しい。</li> <li>○運動会や遠足などの学校行事やペア活動などでは、自分の役割や活動の目標を設定して楽しく活動できた。</li> <li>○自分をわかってくれる友だちがいる。</li> </ul> | <p>肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>75%(児)</li> <li>90%(教)</li> <li>85%(児)</li> <li>90%以上(児)</li> <li>90%以上(児)</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○おおなわ大会・運動会・お別れ式・引き継ぎ式・忍小フェスタの取り組みにおいて、子どもたちの主体的な活動を引き出し、そのなかで相手に伝える(説明する)場を設定し、「できた」をつくる。</li> <li>○相手意識をもたせた活動を、子どもたちが主体的に取り組むように企画運営する。</li> <li>○子どもたち主体の場面を増やし、それを支える教師の立ち位置について、工夫する。</li> <li>○カリマネの学びを活用し、教科横断的な教育活動を積極的に行う。</li> <li>○実践場面の蓄積(視覚化)を行う(掲示)</li> <li>○「楽しい学校」づくりの子どもたちの参画を委員会活動や児童会活動を中心に行う</li> </ul>  |

| 目標設定区分2 『学校組織の運営』   |   |   |
|---|---|---|
| A 今年度の成果目標  |   | 達成基準（各種調査、アンケート等）   |
| 学校教育目標を意識した教育活動を展開し、目標達成に向けて、一人ひとりの役割を自覚し、互いに学び合い支え合う教職員集団の形成。  |   | ○学校教育自己診断アンケート<br>○楽しい学校 Project アンケート<br>○自己申告票  |
| B 目標実現に向けた取組み   |   |   |
| 項目  | 達成基準  | 具体的な方策  |
| 学校教育目標実現に向けた教育活動の展開<br>○ブロック長会議を月1回開く。<br>○学校の教育目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。<br>○教職員の間で、授業方法等について検討する機会がある。<br>○大きな取組み前後に行う作戦会議は有効だった。 | 肯定的評価<br>85%(教)<br><br>80%(教)<br><br>90%(教) | ○学校教育目標の教職員参画による設定を行う。<br>○ブロック長会議で、全体の取組みについて確認をしながら、より目標に向かった取組みとなるように調整を行う。<br>○学校教育目標に基づいた取組みなるよう、取り組む集団の単位で取組みの目標、期待する児童の変容を明確にし、また到達度から児童の変容を見だし、次の取組みに生かす、といった小さなPDCAを回しながら一年間の取組みを積み重ねていく。<br>○特に授業に関しては、教職員間で十分に検討するよう場のくふうを行う。特に、研究授業・公開授業の機会をいかすようにする。 |
| 教職員一人ひとりの役割の遂行<br>○教職員間で子どものことや授業のことなどについて話がしやすい。<br>○自分自身の役割を果たすことができた。  | 100%(教)<br><br>75%(教)                       | ○教職員一人ひとりが自身の役割を果たすことができるための安心できる教職員関係を築く。<br>○自分の組織に対する役割の自覚を促し、自己点検したり、周りに相談したりしながら遂行できるようなワークシート作成や面談を行う。  |

| 目標設定区分3 『人の管理・育成』  |                 |  |
|--|-----------------|--|
| A 今年度の成果目標   |                 | 達成基準（各種調査、アンケート等）  |
| ミドルリーダーの活躍を促し、次期ミドルリーダーの育成を図る。また、教員一人ひとりの資質向上を互いの学び合いにより実現していく。この2点に取り組む、支え合う教職員集団の醸成をめざす。 |                 | ○ミドルリーダーへのインタビュー<br>○学校教育自己診断アンケート<br>○楽しい学校 Project アンケート |
| B 目標実現に向けた取組み  |                 |  |
| 項目   | 達成基準            | 具体的な方策   |
| ミドルリーダーの活躍と時期<br>ミドルリーダーの育成<br>○ミドルリーダーとして、教職員集団の関係構築に、有効に働きかけができた。                        | 肯定的評価<br>90%(教) | ○ブロック長会での情報共有をもとに、教職員集団の育成に向けた働きかけについて、情報共有し、また協議を行う。      |

|  |   |  |
|--|---|--|
| ○次期ミドルリーダーの育成を意識した働きかけができた。  | 90%(教)<br>*インタビューによる振り返りにより評価する。                        | ○各指導部における役割分担や取り組み計画において、次期以ドルリーダーの育成を念頭に働きかける。  |
| <p>教員一人ひとりの資質向上を互いの学び合いにより実現する</p> <p>○初任者を始めとする経験の浅い教員を学校全体で育成している。</p> <p>○学び合う機会は、自身の資質向上に役立った。</p> <p>○ことばを大切にすることを、意識して職務に当たっている。</p> | <p>肯定的評価</p> <p>75%(教)</p> <p>80%(教)</p> <p>100%(教)</p> | <p>○初任者指導担当者を中心に、学校全体で初任者研修にあたる。初任者研修には、経験の浅い教員も含める。</p> <p>○学習指導部の行う授業公開を、積極的に行い、互いに学びあう機会を設定する。</p> <p>○ミニ研修をできるだけ多くの教職員が主体となって行う。</p> <p>○ことばの表現について、学ぶ機会を設定する。</p> |

#### 目標設定区分4 『地域連携と渉外』

| A 今年度の成果目標  |  | 達成基準（各種調査、アンケート等）  |
|---|--|--|
| 保護者の学校教育活動の参画を促すとともに、学校運営協議会の活動を定着かつ発展させ、地域連携をすすめる。                                 |  | <p>活動実績</p> <p>学校教育自己診断アンケート</p>   |
| B 目標実現に向けた取組み   |  |  |
| 項目  | 達成基準   | 具体的な方策   |
| <p>保護者の学校参画</p> <p>○学校通信やが後年通信などで児童の様子をよく伝えている。</p> <p>○参観や懇談会を通じて子どもの様子がよくわかる。</p> | <p>肯定的評価</p> <p>85%(保)</p> <p>90%(教)</p> <p>90%以上(保)</p> | <p>○学校だより、学年だより・学級だよりの発行</p> <p>学校だよりでは、「楽しい学校」の取り組みを精力的に伝える。</p> <p>○保護者の理解を促すための各取り組み主体からの「お知らせ」発行(TM、少人数、各指導部など)</p> <p>○学級懇談会の開催</p> |
| <p>学校運営協議会の動き</p> <p>○協議会の計画を確実に進める。</p> <p>○協議会としての活動を広げる。</p>                     |  | <p>○忍小における「大掃除」の取り組みを定着させる。</p> <p>○忍小においては、学習支援の取り組みについて前向きに検討する等、他の活動を計画していく。</p> <p>○ボランティア募集の方策を検討する。</p>                            |